

閉会の挨拶



北陸信越工学教育協会 会長
天野良彦氏

北陸信越工学教育協会の会長をしております天野より、本シンポジウムの閉会にあたり一言ご挨拶をさせていただきます。本日はシンポジウムに多くの方にお集まり頂き、ありがとうございました。また、この工学教育、特に大学院教育に対して、講演の先生方には大変貴重な講演を頂きまして、心より御礼申し上げます。

文科省の山路様には、工学教育改革の中で4本の柱についてお話しいただき、これからは柔軟な教育体制を構築することが肝要である旨のお話を頂きました。信州大学も8つの学部がありますが、理系の大学院は学部とはイコールではなく、上に行くほど融合するつくりになっております。私も工学系長で工学部長でありながら、修士課程は工学専攻長ではなく、生命医工学専攻長であり、博士課程に至っては、ファイバー工学の講座に所属するという、大変ねじれた所属になっております。上の組織になればなるほど融合していますので、学部から大学院のつなぎの部分がとても重要になっていくことを感じている次第です。また、最終的には実践教育の中で、産業界の人をどう取り入れていくかというところは、今後の課題だと承りましたので、我々も今後考えていきたいと思っております。

次に、3人の先生方には繊維・ファイバー工学における大学院教育という観点でお話しを頂きました。京都工芸繊維大学の浦川先生には、京の匠の工芸技術を工学的な教育に取り組むというところで、実践的な教育をされていることについて、非常にユニークな取り組みだなと感じた次第でございます。また、福井大学の末先生には、実践的な教育の成果として、その出口である就職が70%ぐらいの学生が繊維業界に行っているなど、実際の成果の実績を上げておられるというところで、非常に感銘した次第でございます。それから、下坂先生には、ドクターコースでは、経営を担えるような人材を育てるというコースのお話しを頂きました。特にグローバルリーダー

を育てるという点で、信州大学繊維学部の取り組みはグローバル化を組織として行っているところでは、我々工学部も見習わなくてはいけないと思っております。我々のところでは、なかなかまだまだ個人レベルの面を脱していないという域ですが、繊維学部の取り組みは、非常に戦略性に富んでいると感じております。

最後に東洋紡の坂元様には、企業から見た人材教育という貴重なお話をいただきました。特に大学院に求める経営人材をどう育てるかというところは、大学にとっても非常に大事な課題であると考えております。最後のほうに述べられてましたように、第三世代の人材育成からもう第四世代というところに来ているということが印象的でした。工学教育ばかりでなく、すべての高等教育においてデータサイエンスの重要性についてご指摘頂きました。我々工学部としても、データサイエンス等の教育を今後どうしていくかという議論を始めたところですが、この点は十分考えていかなければならないと感じております。

いずれにしても本日のシンポジウムにおきましては、非常に貴重な講演が聞け、さらには活発なディスカッションができたと思っております。これもこのシンポジウムを企画いただきました繊維学部長の下坂先生はじめ事務方の皆様、また北工教の企画担当の中村先生など、関係各位の方の努力の賜物であり、ここに深く感謝申し上げたいと思います。また、ご参加の皆さんには、今日聞いたお話や討論の内容を生かして、ぜひ工学教育がこれから前進することを祈念申し上げまして、私の閉会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。